

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)フィットネスクラブ ハーブ	階数	地上2F
建設地	(仮換地)小牧岩崎山前土地区画整	構造	S造
用途地域	第1種住居地域、法22条区域、	平均居住人員	450 人
気候区分	6地域	年間使用時間	3,636 時間/年
建物用途	集会所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2017年5月 予定	評価の実施日	2016年12月25日
敷地面積	6,014 m ²	作成者	伊藤 誠
建築面積	1,374 m ²	確認日	2017年1月16日
延床面積	2,615 m ²	確認者	伊藤 誠



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

= BEE0.9 ★★☆☆☆☆

★:S★★★★★ A:★★★★★ B:★★★★★ B-:★★★★★ C

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

☆☆☆☆☆☆

☆:100%超 ☆☆:100% ☆☆☆:80% ☆☆☆☆:60% ☆☆☆☆☆:30%

標準計算

①参照値	138
②建築物の取組み	88%
③上記+②以外の	88%
④上記+	88%

(kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 **Q のスコア= 2.7**

Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.1

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 2.6

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア= 2.2

LR 環境負荷低減性 **LR のスコア= 3.1**

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 3.5

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 2.7

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.1

3 重点項目	
<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.4</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p style="text-align: center;">4.1 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p style="text-align: center;">0.0 %</p>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">2.5</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

④地域材の活用
Q-3 2 まちなみ・景観の配慮 4)地域性のある素材による良好な景観形成

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積} - \text{建物面積} + \text{附属物面積}}$ × 100

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}}$ × 100

みんなの環境活動を応援しています
モリコロパーク

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体		
			評価点	重み係数	評価点	重み係数			
Q 建築物の環境品質									2.7
Q1 室内環境									3.1
1 音環境				3.0	0.23				3.0
1.1 騒音				3.0	0.40				
1.2 遮音				3.0	0.40				
1 開口部遮音性能				3.0	1.00				
2 界壁遮音性能									
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)									
4 界床遮音性能(重量衝撃源)									
1.3 吸音				3.0	0.20				
2 温熱環境				3.0	0.44				3.0
2.1 室温制御				3.0	0.50				
1 室温				3.0	0.50				
2 外皮性能				3.0	0.17				
3 ゾーン別制御性				3.0	0.33				
2.2 湿度制御				3.0	0.20				
2.3 空調方式				3.0	0.30				
3 光・視環境									
3.1 屋光利用									
1 屋光率									
2 方位別開口									
3 屋光利用設備									
3.2 グレア対策									
1 屋光制御									
3.3 照度									
3.4 照明制御									
4 空気質環境				3.5	0.33				3.5
4.1 発生源対策				4.0	0.50				
1 化学汚染物質		合板類・接着剤類は全て、ホルムアルデヒド放出区分(F☆☆☆☆)		4.0	1.00				
4.2 換気				3.0	0.30				
1 換気量				3.0	0.50				
2 自然換気性能									
3 取り入れ外気への配慮				3.0	0.50				
4.3 運用管理				3.0	0.20				
1 CO ₂ の監視				3.0	0.50				
2 喫煙の制御				3.0	0.50				
Q2 サービス性能					0.30				2.6
1 機能性				2.5	0.40				2.5
1.1 機能性・使いやすさ				1.0	0.40				
1 広さ・収納性									
2 高度情報通信設備対応									
3 バリアフリー計画				1.0	1.00				
1.2 心理性・快適性				4.0	0.30				
1 広さ感・景観									
2 リフレッシュスペース									
3 内装計画		インテリアパース等によるインテリアの事前検証		4.0	1.00				
1.3 維持管理				3.0	0.30				
1 維持管理に配慮した設計				3.0	0.50				
2 維持管理用機能の確保				3.0	0.50				
2 耐用性・信頼性				2.9	0.31				2.9
2.1 耐震・免震				3.0	0.48				
1 耐震性				3.0	0.80				
2 免震・制振性能				3.0	0.20				
2.2 部品・部材の耐用年数				3.0	0.33				
1 躯体材料の耐用年数				3.0	0.23				
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				3.0	0.23				
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				3.0	0.09				
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		耐湿部のダクトにGL鋼板を採用		4.0	0.08				
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				3.0	0.15				
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.23				
2.4 信頼性				2.4	0.19				
1 空調・換気設備				3.0	0.20				
2 給排水・衛生設備				3.0	0.20				
3 電気設備				3.0	0.20				
4 機械・配管支持方法				1.0	0.20				
5 通信・情報設備				2.0	0.20				
3 対応性・更新性				2.5	0.29				2.5
3.1 空間のゆとり				1.0	0.31				
1 階高のゆとり									
2 空間の形状・自由さ				1.0	1.00				
3.2 荷重のゆとり				3.0	0.31				
3.3 設備の更新性				3.3	0.38				
1 空調配管の更新性				3.0	0.17				
2 給排水管の更新性		給排水管について 地下ピットを設け構造体を痛めることなく更新出		4.0	0.17				
3 電気配線の更新性				3.0	0.11				
4 通信配線の更新性				3.0	0.11				
5 設備機器の更新性				3.0	0.22				
6 バックアップスペースの確保		屋外機械置場にバックアップ用スペースを確保		4.0	0.22				

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目	評価点	重み 係数	評価点	重み 係数					
						Q3 室外環境(敷地内)				
1 生物環境の保全と創出	独自③	1.0	0.30	-	-	-	-	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮	独自④	3.0	0.40	-	-	-	-	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮										
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	独自④	2.5	0.30	-	-	-	-	-	-	2.5
3.2 敷地内温熱環境の向上		2.0	0.50	-	-	-	-	-	-	
		3.0	0.50	-	-	-	-	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性										
LR1 エネルギー										
BPIm=0.87										
1 建物外皮の熱負荷抑制		4.0	0.30	-	-	-	-	-	-	4.0
2 自然エネルギー利用		3.0	0.20	-	-	-	-	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化										
BEIm=0.88										
集合住宅以外の評価(3a.3b)		4.0	1.00	-	-	-	-	-	-	4.0
集合住宅の評価(3c)		-	-	-	-	-	-	-	-	-
4 効率的運用										
集合住宅以外の評価		2.5	0.20	-	-	-	-	-	-	2.5
4.1 モニタリング		2.5	1.00	-	-	-	-	-	-	
4.2 運用管理体制		3.0	0.50	-	-	-	-	-	-	
集合住宅の評価		2.0	0.50	-	-	-	-	-	-	
4.1 モニタリング		-	-	-	-	-	-	-	-	
4.2 運用管理体制		-	-	-	-	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル										
節水タイプのシャワー水洗を使用										
1 水資源保護										
1.1 節水		3.4	0.15	-	-	-	-	-	-	3.4
1.2 雨水利用・雑排水等の利用		4.0	0.40	-	-	-	-	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無		3.0	0.60	-	-	-	-	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.67	-	-	-	-	-	-	
		3.0	0.33	-	-	-	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減										
2.1 材料使用量の削減		2.4	0.63	-	-	-	-	-	-	2.4
2.2 既存建築躯体等の継続使用		2.0	0.07	-	-	-	-	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	② 独自	3.0	0.24	-	-	-	-	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		3.0	0.20	-	-	-	-	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材		1.0	0.20	-	-	-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	独自	2.0	0.05	-	-	-	-	-	-	
		3.0	0.24	-	-	-	-	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避										
3.1 有害物質を含まない材料の使用		3.0	0.22	-	-	-	-	-	-	3.0
3.2 フロン・ハロンの回避		3.0	0.32	-	-	-	-	-	-	
1 消火剤		3.0	0.68	-	-	-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)		-	-	-	-	-	-	-	-	
3 冷媒		-	-	-	-	-	-	-	-	
		3.0	1.00	-	-	-	-	-	-	
LR3 敷地外環境										
ライフサイクルCO2概算値:88%										
1 地球温暖化への配慮	①	3.4	0.33	-	-	-	-	-	-	3.4
2 地域環境への配慮										
2.1 大気汚染防止		3.0	0.33	-	-	-	-	-	-	3.0
2.2 温熱環境悪化の改善		3.0	0.25	-	-	-	-	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制		3.0	0.50	-	-	-	-	-	-	
1 雨水排水負荷低減	独自	3.0	0.25	-	-	-	-	-	-	
2 汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	-	-	-	-	
3 交通負荷抑制	独自	4.0	0.25	-	-	-	-	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制		2.0	0.25	-	-	-	-	-	-	
3 周辺環境への配慮										
3.1 騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.33	-	-	-	-	-	-	3.0
1 騒音	独自	3.0	0.40	-	-	-	-	-	-	
2 振動	独自	3.0	0.50	-	-	-	-	-	-	
3 悪臭		-	-	-	-	-	-	-	-	
		3.0	0.50	-	-	-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制		3.0	0.40	-	-	-	-	-	-	
1 風害の抑制		3.0	0.70	-	-	-	-	-	-	
2 砂塵の抑制		-	-	-	-	-	-	-	-	
3 日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	-	-	-	-	
3.3 光害の抑制		3.0	0.20	-	-	-	-	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のつらみに減る光への対策		3.0	0.70	-	-	-	-	-	-	
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	-	-	-	-	

重点項目スコアシート

(仮称)フィットネスクラブ ハーフ

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2014年版+あいち版手引き

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)	評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策			3.4
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.4	0.10
② 資源の有効活用			2.5
Q2-2	耐震性・信頼性	2.9	0.09
Q2-3	対応性・更新性	2.5	0.09
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.4	0.19
③ 敷地内の緑化			1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.09
			外構緑化:4.1%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用			1.0
			(評価ポイント)
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-
			なし
			なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 (仮称)フィットネスクラブ ハ

計画上の配慮事項	
総合	最新の設備と心地よい空間をあわせ持った、大人のための新しいフィットネスクラブです
Q1 室内環境	内装材・収納家具及び建具類に用いる合板類・接着剤類は全て、ホルムアルデヒド [®] 放出区分《F☆☆☆☆》とする。
Q2 サービス性能	照明計画と内装計画を一体で計画して 利用者に心地よい空間を演出している。
Q3 室外環境(敷地内)	外壁色彩計画において 周辺のまちなみや風景にバランス良く計画している。
LR1 エネルギー	ロスナイ換気扇を使用し 冷房負荷を抑えている。
LR2 資源・マテリアル	節水タイプのシャワー水栓や オートストップ水栓を採用し 水の総使用量を抑える計画をしている。
LR3 敷地外環境	利用者の為の適正な数の駐車場と駐輪所を設置し 周辺道路に渋滞や路駐を発生させない様に配慮している。
その他	